

Smile インタビュー⑦
Woman!
 この人の仕事のかたち
 どこか置いてある「仕事」をしているあの人のズームアップ。

芸術祭の盛況を 後方から支える



Makie Saito

●瀬戸内海に魅せられて

瀬戸内海の島々を舞台に3年ぶりに開催され、国内外から大きな注目を集めている「瀬戸内国際芸術祭2013」。斉藤牧枝さんは、芸術祭の運営を支える4千名以上の登録ボランティア「こえび隊」をとりまとめるNPO法人の事務局で活躍中。本州側の玄関口、宇野港で唯一人の常勤スタッフとして、日々忙しくイキイキと頑張っている。

元々は横浜市職員という経歴を持つ斉藤さん。なぜ異郷の宇野でNPOに勤務することになったのか？「瀬戸内や中四国を旅した際に興味を抱き、宇野市の職員派遣の公募があった際に自ら志願したんです」と語る。実際に宇野に赴き、「同じ港まわりの横浜と違って、こちらでは生活がとてども密着していると実感し、そこに魅力を感じました」という言葉の通り、その後は海に根ざした瀬戸内の生活文化を積極的に体験し、またイベントでのボランティアなど地元の人とも盛んに交流を重ねるようになった。

●人と人の橋渡しとして

そんな斉藤さんにとって、「瀬戸内国際芸術祭」に関わることはまさに必然。前回の一介のボランティアとしての参加から、今回は公務員の職を辞し、NPOの常勤スタッフに専念するほど熱が入る。斉藤さんの役割は、ボランティアや地元の人にも参加を呼びかけ、作家と結び芸術作品の制作・

特定非営利活動法人
 瀬戸内こえびネットワーク
斉藤 牧枝さん
 www.kobibit.jp



設置を行ったり、会期中に本州から島に渡るこえび隊の後方支援、また会期以外にも行なわれるイベントの運営や常設作品の保守など多種多様。「責任重大で大変だけど、それ以上に楽しいです」と話す姿に、

全国から集うボランティアや来場者、また地元の人達をむすぶ橋渡しを担うこの仕事を、心から楽しむ様子がうかがえる。

●原点は島と人を愛する想い

芸術祭の間にはほぼ無休で宇野港に訪れる斉藤さん。「もしも休暇が取れたら？」の質問に、「島に渡ります」と即答する。「会期中はこえび隊皆の心をつなぐために、毎朝活動前に「エイエイオー」をするんです。事務局の皆と「休みが取れたら、中西諸島の島にも行って現地でエイエイオーやりたい」と話しています」と笑う。その笑顔には、瀬戸内の島々や人との触れあいを下なく愛する人柄がけしきみ出る。芸術祭の期間中、宇野港では毎週末に多様なイベントも行なわれるという。斉藤さんをはじめ、多くの裏方の皆さんに支えられ、「瀬戸内国際芸術祭2013」はますます盛り上がりを見せている。